

シラバス情報

授業方法	講義 ・ 実験 ・ 実習		
系 列	実務実習		
科 目 名	評価実習		
必修・選択	必修科目 ・ 選択科目		
対象学科	一級自動車整備科		
年次学期・曜日・時限	4年後期	・ 月～水曜日	・ 1時限～8時限
時 限 数	319. 2時限（期末試験を除く）		
担当教員名	井浦 猛・脇屋敷 竜太・板垣 潮・吉田 哲也		
実務経験	有 ・ 無		
	国土交通省に認証された事業場における保守・点検・分解・組立など自動車整備士としての経験を活かし、一級自動車整備士としての基礎から応用まで幅広く実習を実施する。		
授業の目的	自動車分解整備事業の認証を受けた事業場における各学生の体験実習の効果を評価し、知識及び技能の平準化並びに高度化を目的に、基礎・応用・指導技能の反復訓練を実施する。又、各学生においては体験実習の評価を通じ、課題抽出、課題克服計画作成、計画遂行を実行するものとする。		
テキスト	①自動車定期点検整備の手引き（日本自動車整備振興会連合会 発行） ②一、二、三級各教本（日本自動車整備振興会連合会 発行）		
授 業 計 画			
授業回数	テーマ	内容・方法等	使用テキスト 範囲
第1回～第30回	道路運送車両の点検及び整備	車両取扱、各種設備取扱 日常点検整備、定期点検整備、一般整備等	①②全般
第31回～第42回	高度故障診断技術	エンジン、シャシ各装置の高度故障診断技術 及び総合診断技能の習得	①②全般
	期末試験	第1回～第42回までの授業内容に関する 実技試験	
到達目標	体験実習の効果を自己評価し、自動車分解整備事業の認証を受けた事業場におけるサービス業務に従事する上で不足する部分の平準化を図り、併せて、一級自動車整備士として期待される技能及び知識を修得する。		
成績評価方法	平常点（小テスト、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度）、期末試験を合算して行う。		
定期試験受験資格	開講された全時限に出席し、レポート・ノートの提出が完了している者。 欠席した時限がある場合は、補講も完了している者。		

<p>成績評価基準</p>	<p>成績評価は、期末試験の点数が50点以上を満足した上で、100点を満点とする整数について、次の割合で行う。</p> <p>期末試験の点数 80%</p> <p>平常点 20%</p> <p>上記の割合によって学期末の評点が70点以上である場合、以下により評価する。</p> <p>70～79点 = 良、80～89点 = 優、90点以上 = 秀</p> <p>70点未満の場合、再試験を行い、試験点のみで70点以上のとき履修を認定し、成績は70点 = 良とする。</p>
<p>成績評価できない 場合の基準</p>	<p>全講義を終了時点の出席率が50%を満たしていない場合、 又は、成績評価が70点未満の場合。</p>